

つばた

議会だより

No.138

2016. 7. 5

6月会議 市街地に誘導案内看板を設置

2P

クローズアップ 消防ポンプ自動車3台を更新

4P

委員会審議 地域ブランド認証マークが決定

5P

いっばん質問 新教育長の所信を問うなど 9人が登壇

9P

はじける笑顔

(中条東保育園)

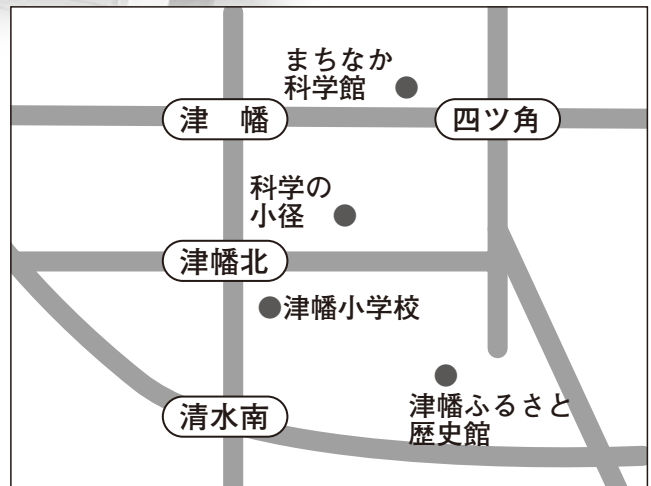
●まちなか
科学館

市街地を周遊 案内看板を設置

145万円計上

れきしる、まちなか科学館、科学の小径

6月会議を6日から13日までの会議期間で開催した。初日に一般会計補正予算、条例の改正などを含む議案8件、承認12件が提出され、引き続き町政全般について9人が一般質問を行った。議案は、各常任委員会審議を経て全議案を可決、請願1件を採択、3件を不採択とし、意見書2件を可決した。続いて固定資産評価審査委員会委員の選任、人権擁護委員の推薦について同意した。



市

街地にある、津幡ふるさと歴史館「れきしる」

とまちなか科学館、ふれあい広場の科学の小径を周遊できるよう、誘導案内看板を11か所に設置する。

子どもからお年寄りまで、多くの方に訪れていただけるよう、読みやすく分かりやすい看板を作成する。

一般会計補正予算

6725万円を可決

(賛成13人・反対1人)

一般会計総額127億325万円に

●科学の小径

●津幡ふるさと
歴史館

▲街中巡りを楽しもう！

人事



(以上、全員賛成)

再任
(刘安)

田中 郁子氏

31年9月30日

(平成28年10月1日)

人権擁護委員



再任

(北中条)

田川 俊範氏

31年6月26日

(平成28年6月27日)

審査委員会委員

固定資産評価

選任された委員

こんなことに使われます
クローズアップ

6月補正予算で新たに行われる事業など、一部を紹介します。

▶井上の荘付近



町道太田領家線

道路補修事業

1051万円

道路施設総点検の結果、町道太田領家線の舗装損傷が激しいことが分かった。利用者の安全確保を図るため、国の交付金を活用し、道路の補修工事を行う。平成28年度は210mのうち80mを補修する。

消防ポンプ自動車

3台を更新

3369万円

中条、井上、倉見の各分団で使用している消防ポンプ自動車 が経年劣化したため更新する。



マイナンバー制度に伴う

電算システムを整備

631万円

平成26、27年度に引き続き、国の補助を受けて現行の基幹業務システムの整備を行う。

反対

マイナンバー制度は個人情報報漏えい、国による監視の危険性、今後の利用範囲の拡大などの不安を強く感じるため、認めるとはできない。

塩谷 道子議員

条例改正

言語聴覚士を

河北中央病院に

言語聴覚士を新たに採用したことに伴い、医療等業務手当を支給する職種に追加する。

聞く、話すことに関することや高齢者の嚥下障害のリハビリの手助けなど、言語聴覚士の活躍の場は多い。

一般会計
補正予算

2251万円を可決 (全員賛成)

一般会計総額136億4291万円に

3月第2回会議

**一億総活躍社会の実現へ
国の交付金を活用**



▲東側から見た津幡駅

○地域の福祉拠点づくり
活性化事業委託料
1071万円
町内7地区において町社会福祉協議会と既存の地区組織から発展させた組織が協働し、地域生活総合センター(仮称)の設置に向けた委託料。

○津幡駅周辺及び東部地区まちづくり基本構想調査費
1100万円
駅東口・新駅整備を含め、民間活力による定住基盤整備など、拠点づくりのための調査を行う。

3月28日に3月第2回会議を開催した。平成27年度一般会計補正予算の議案1件が提出され、常任委員会審議を経て可決した。

委員会 審議

町議会では3部門の常任委員会に分かれ審議しています。

総務（総務・財政・税務・議会・監査・消防など）

◎荒井 克○角井外喜雄 西村 稔 塩谷道子 向 正則 河上孝夫

文教福祉（民生・衛生・保険年金・福祉・教育・病院）

◎八十嶋孝司○道下政博 竹内竜也 酒井義光 洲崎正昭

産業建設（土木・農林・労働・商工・上下水道）

◎森山時夫○谷口正一 森川 章 井上新太郎 多賀吉一
（◎委員長 ○副委員長）

総務

地域ブランドを推進
認証マークを決定

認証マークを決定

-総務課-



つばた認定
ブランド

▲このマークが目印

Q マークをデザインしたのは。

A 石川工業高等専門学校
の学生に依頼し、デザ
インしてもらった。

Q 複数の種類があるのは
なぜか。

A それぞれの商品にあわ
せられるよう、5種類
とした。

文教福祉

保育業務支援システム
導入に補助

導入に補助

-健康子ども課-

Q 導入の目的は。

A 保育日誌や出欠などを
システム化し、保育士
の事務処理上の負担を
少しでも軽減する。

Q 対象の保育園は。

A ちいろば、住吉、実生、
さくらの町内の認定こ
ども園4園である。



▲園児とともに（実生保育園）

産業建設

サンライフ津幡
ランニングマシンを更新

ランニングマシンを更新

-交流経済課-

さらに1台追加する。

Q 更新理由は。

A ランニングマシンは4
台設置してあるが、順
番待ちで利用していた
だけでなく、老朽
化により頻繁に故障す
る1台を今回更新し、

Q 稼動状況は。

A 日中は医療目的のリハ
ビリなどで、夕方から
は勤め帰りの方が多く
利用している。



▲汗を流して健康に

4件を審査

採択

次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書の提出を求める

◎請願者 公明党津幡支部

副支部長 堀田 功
紹介議員 道下 政博
(全員賛成)

主旨

平成27年に閣議決定された次期介護保険制度改正では、軽度者に対する福祉用具貸与等の給付および住宅改修利用の見直しを検討することが盛り込まれたが、原則自己負担になれば、生活弱者の切り捨てになりかねず、重度化が懸念される。よって、原則自己負担としないよう強く求める。



採択された1件の請願は
意見書を内閣総理大臣ほか
関係機関に送付しました

文教福祉常任委員会発議で

意見書を国に提出

意見書

国へもの申す

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度の

拡充を求める意見書

文教福祉常任委員長 八十嶋 孝司

教育は、日本の未来を担う子どもたちを心豊かに教え、育てるといふ重要な使命を負っており、子どもたちに豊かな教育を保障することは、社会の基盤づくりにとって極めて重要なことである。しかし近年、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題や特別な支援を要する児童生徒への対応等、学校を取り巻く状況は複雑・困難化しており、学校に求められる役割は拡大している。一人一人の子どもたちへのきめ細かな対応や学びの質を高めるための教育環境を実現するためには、国において教職員定数の改善が必要である。

また、義務教育費国庫負担制度は、教育の機会均等とその水準の維持向上に大きな役割を果たしているが、自治体においては厳しい財政状況などから教育予算を十分に確保することが困難な現状にある。幾つかの自治体では、独自財源による定数措置が行われているが、自治体の財政力の違いによって子どもたちが受ける教育水準に格差があつてはならない。子どもたちが全国どこに住んでいても一定水準の教育を受けられることは極めて重要であり、国全体として教育予算をしっかりと確保、充実させる必要がある。

(全員賛成)

不採択となった請願

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める

◎請願者 石川県教職員組合河北支部

執行委員長 政近 顕純
紹介議員 竹内 竜也
(賛成3人・反対11人)

委員会の主な意見

教職員定数は、小学校1、2年において35人以下学級の編成ができるよう改善がなされてきた。義務教育費国庫負担制度の負担割合減は、地方分権の見地から税源が移譲された経緯があり、復元を求めることは適当ではない。

食品ロス削減に向けての取り組みを進める意見書の提出を求める

◎請願者 公明党津幡支部

副支部長 堀田 功
紹介議員 道下 政博
(賛成3人・反対11人)

「消費税の再増税を中止し、生活費非課税・応能負担の税制を求める」意見書の採択を求める

◎請願者 能登民主商工会

会長 亀崎 正蔵
紹介議員 塩谷 道子
(賛成2人・反対12人)

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める

賛成
子どもの学習権は、義務教育を通じて最大限尊重されるべきだ。子どもたちと丁寧に向き合うためにも、国庫負担率の復元によって教職員定数を改善することが必要である。
竹内 竜也 議員

食品ロス削減に向けての取り組みを進める

賛成
食品ロス削減について、事業所や各家庭の努力に任せられている現状では成果が出ていない。意識を高めるためにも、推進本部の設置や担当大臣の明確化が必要である。
道下 政博 議員

反対
関係省庁、事業所、各家庭において食品ロス削減の取り組みの成果が出ている。推進本部の設置や担当大臣の明確化がかえって経済を疲弊させる恐れがある。
森川 章 議員

消費税の再増税を中止し、生活費非課税・応能負担の税制を求める

賛成
低所得者ほど負担が重い消費税を社会保障の財源とすべきではない。大企業や高所得者に応分の負担を求めるなど、税金の集め方、使い方を見直すべきである。
塩谷 道子 議員

反対
少子高齢化が進み、社会保障給付費は膨らみ続けている。消費税は、国民に対し広く薄く課税するもので、経済の動向に左右されにくい。増税は必要である。
荒井 克 議員

6月会議の審議結果

(賛否の分かれたもののみを掲載しています)

賛成…○ 反対…× 欠席…欠 退席…退 除斥…除

議案	件名と主な内容 (件名は一部省略しています)	議決結果	議席番号															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
			森川章	竹内竜也	井上新太郎	八十嶋孝司	西村稔	荒井克	森山時夫	角井外喜雄	酒井義光	塩谷道子	多賀吉一	向正則	道下政博	谷口正一	洲崎正昭	河上孝夫
議案	一般会計補正予算(第1号)…暴風による破損箇所の修繕費やマイナンバー制度に対応するための電算システム費など、6725万円を増額する。	可決 賛13・反1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	-	○	○	欠	○
請願	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める意見書採択について	不採択 賛3・反11	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	-	×	×	欠	×
	食品ロス削減に向けての取り組みを進める意見書の提出を求める請願	不採択 賛3・反11	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	-	○	×	欠	○
	「消費税の再増税を中止し、生活費非課税・応能負担の税制を求める」意見書の採択を求める請願	不採択 賛2・反12	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	-	×	×	欠	×

※議長は採決に加わらないため「-」で表示

皆さまの善意

ありがとうございました



熊本地震義援金
65万2487円

当議会では、4月14日に発生した熊本地震災害の一日も早い復興を願い、被災地への救済のため町内10か所に義援金箱を設置しました。
皆さまからいただいた温かいお気持ちは、5月23日に熊本県に送金しました。

議会を傍聴しましょう

議会の会議録は町議会ホームページでみることができます。

◎町政一般質問は年4回(3月、6月、9月、12月)行われます。

お問い合わせは、 議会事務局 (TEL288-6410)

ズバリ

町政を問う

9人が一般質問

一般質問とは、議員が町政全般について町長など執行機関に考えや方針を問うものです。制限時間は1人30分以内で、一問一答で行われます。

- 1 荒井 克 議員……………10
 - ・避難場所の周知を徹底せよ
 - ・教育委員会制度改革に新教育長の思いは
- 2 井上新太郎 議員……………11
 - ・災害時相互応援協定の締結状況は
 - ・業務継続計画の策定を急げ
- 3 八十嶋孝司 議員……………12
 - ・新教育長のスポーツ行政にかける思いは
 - ・コミュニティセンターの機能充実を図れ

ほか1問
- 4 道下 政博 議員……………13
 - ・役場庁舎の耐震化を急げ
 - ・特設公衆電話の回線を引き災害時に備えよ

ほか2問
- 5 西村 稔 議員……………14
 - ・耕作放棄地の転用を容易に認めよ
 - ・県道への消雪設備設置の要望に対する回答は
- 6 河上 孝夫 議員……………15
 - ・津幡小学校にナイター照明を設置せよ
 - ・防火水槽、消火栓、格納ボックスの点検は
- 7 森川 章 議員……………16
 - ・倶利伽羅地区を日本遺産に登録せよ
 - ・獅子舞を町指定無形文化財に

ほか1問
- 8 塩谷 道子 議員……………17
 - ・国保税の引き下げを求める
 - ・子どもの貧困の実態を調査せよ

ほか2問
- 9 竹内 竜也 議員……………18
 - ・就学援助の現状に対する認識は
 - ・育児と介護のダブルケアへの対応を示せ

議員の寄附行為は公職選挙法で禁止されています

- 香典や結婚披露宴における祝儀（本人出席の上、通常一般の社交の範囲であるときを除く）
- 議員や後援会がお中元やお歳暮を贈ること
- 町民や団体が議員に寄附などを求めること

このほか、議員活動に対して法律上の制限があります。各種会合への出席依頼には参加費を必ず明記してください。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします

ん質問



荒井 克 議員

防災対策

避難場所の

周知を徹底せよ

一層の周知、啓発を図る

荒井 議員

森本・富樫断層帯が一度に活動した場合、マグニチュード7・2、震度6強の地震発生が予測されている。

被災地での教訓を生かし、避難場所の周知を徹底せよ。

熊本地震では避難先によって、支援物資の配備やその他のケアに格差が生じた。

石庫 総務部長

熊本地震では、指定避難場所以外にも避難された方がいたため、情報の遅れから行政の対応に時間がかかった。

防災ハンドブックの全戸配布、町民参加の訓練の場などを通じて、避難場所の一層の周知を図りたい。

やむなく指定避難場所以外に避難された場合、災害対策本部などへ連絡できる体制もあわせて検討したい。



▶避難場所の確認を

制度改革に 新教育長の思いは

信頼を基盤に 教育行政に取り組む

教育委員会

荒井 議員

教育行政における責任体制の明確化、審議の活性化、危機管理体制の構築などを目的とした制度改革が行われ、町教育委員会も新体制となった。

教育に一番大切なことは、信頼だと考えている。1つ目は児童生徒、保護者、地域から信頼される学校づくり。2つ目に町民から喜ばれ、親しまれる生涯学習事業の展開。3つ目は各種団体との信頼を基盤とした連携。これらを三本柱として、信頼を基盤とした教育行政を推進していく。



▲信頼に支えられる教育（津幡中学校）

吉田 教育長



井上新太郎 議員

ズバリ 町政を問う

いっば

熊本地震では、全国から千人を超える自治体職員が応援に駆け付け、避難所運営や罹災証明発行などの復旧支援に当たった。これは、あらかじめ締結されていた災害時相互応援協定の成果であると言える。

井上 議員

災害復旧

相互応援協定の締結状況は

7自治体と締結している

石庫 総務部長

金沢市、かほく市、内灘町、小矢部市、中能登町のほか、大規模災害による近隣自治体の同時被災を想定し、福岡県岡垣町、和歌山県上富田町と締結している。

実効性を第一に、職員等の派遣、食料・資機材の提供を中心とした内容であり、災害時の連絡窓口・組織体制の確認や意見交換を行うなど、平時から連携を図っている。



▲交流を深めよう

平成21年には、おおむね40%の職員が登庁不能となった場合を想定し、新型インフルエンザ発生時における計画を作成した経験がある。早急に策定を進めたい。

B C P

業務継続計画の策定を急げ

早急に進めたい

井上 議員

熊本地震では、業務継続計画（BCP）の策定状況によって、被災後の自治体業務に差が出ていることが明らかになった。

森本・富樫断層帯による被災を想定し、町関係機関の業務継続計画策定を急げ。

矢田 町長

大規模災害が発生し、被災によるさまざまな制約が伴う状況下においても、自治体としての業務を継続させるための重要な計画であると認識している。

ん質問



八十嶋孝司 議員

新教育長

スポーツ行政に

かける思いは

各種団体との

信頼関係の構築に努める

八十嶋 議員

日ごろから、町長はスポーツが強く盛んな町は元氣な町と話している。新教育長には、津幡南中学校女子駅伝チームを全国区に育てた実績から、

町のジュニア層の育成にも一層の期待がある。スポーツ行政にかける思いとスポーツを通して人を育ててきた信念を伺いたい。



吉田 教育長

スポーツ行政に関しては、各種団体との信頼関係の構築に努めたい。関係団体と連携し、誰もが気軽にスポーツに親しめるよう、環境整備を図る。一つのことにも真剣に取り組むことは、人間としての成長につながる。人格の未完成的な青少年の指導においては、指導者の役割が極めて大切であると考えている。

コミュニティセンターの機能充実を図れ

機能強化・多機能化を推進する

まちづくり



▲話し合う地域の人々

八十嶋 議員

町にはコミュニティタイプラザや公民館などが10施設ある。これらの施設では今、地域が中心となるまちづくりが進みつつある。

今後さまざまな課題について地域住民が主体となる活動が予想される中、第5次町総合計画ではこれらの拠点となる公民館の整備、充実が示された。具体的構想を示せ。

矢田 町長

第5次町総合計画では、参画と協働による町民主体のまちづくりを掲げている。公民館は、その役割を担う拠点施設であると考えており、これからは生涯学習、健康福祉、子育て以外にも多様な役割が求められることもあり、機能強化、多機能化を推進するとしたものである。

必要な施設や設備の整備、充実、現在策定中の公共施設等総合管理計画の中で検討していく。

その他の質問

Q 熊本地震を検証し、町の地震対策に生かす。

A 災害に強いまちづくりを着実に進めたい。



道下政博 議員

ズバリ 町政を問う

いっぴ

役場庁舎の 耐震化を急げ

建て替えのため基金を
積み立てている

防災拠点

道下 議員

熊本地震では、防災拠点となるべき自治体庁舎が、損壊したことによって機能不全に陥るケースが相次いだ。財政上の理由によって、庁舎の耐震化や建て替えに進展がないのは当町も同様であるが、同じ轍を踏むべきではなく、耐震化を急ぐべきだ。



◀災害に備えて建て替えを

矢田 町長

東日本大震災を機に立ち上げたプロジェクトチームで庁舎耐震化方針の検討を行い、耐震補強ではなく建て替えが望ましいとの結果が出ている。庁舎建設には、補助金や交付税措置がされる有効な地方債が存在せず、多くの自治体で整備を遅らせる要因となっている。平成27年度に創設した庁舎整備基金の積み立てを進めながら、さまざまな方法を検討し、一刻でも早く庁舎建て替えを実現したい。

特設公衆電話

回線を引き

災害時に備えよ

工事費・財源を

調査、研究したい

道下 議員

地震発生後の熊本県内では、全域で公衆電話の通話料が無料となり、多くの被災者に利用された。また、災害時に避難所などに設置され、無料で利用できる特設公衆電話もある。当町でも、避難所となる施設にあらかじめ回線を引いておき、災害時に備えるべきだ。



▲安否確認に威力を発揮

石庫 総務部長

特設公衆電話は、避難者が安否を知らせるなどの通信手段の確保を目的としており、多くの利用が見込まれる。設置については、保安器、屋内外の配線工事はNITが実施、電話機の新設に係る費用などは、設置者である自治体の負担となる。

今後、工事費や財源を調査、研究したい。

その他の質問

Q 震度6強の揺れと予測される砺波地震への対応は。

A 防災訓練の一層の充実に努めたい。

Q 一週間の食料備蓄を、各家庭に推奨せよ。

A 呼びかけていきたい。

ん質問



西村 稔 議員

耕作放棄地

転用を容易に認めよ

基準を満たす必要がある

西村 議員

農地法は、耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食料の安定供給の確保に資することを目的としている。しかし、農地を耕作す

ることができないため、手放すことを考えている所有者が増加している。耕作放棄地の転用を容易に認め、積極的な活用

に協力せよ。

八田 農林振興課長

法では、転用・農用地区域除外などの許可には一定の基準をすべて満たすことを義務付けている。やむを得ず耕作ができなくなった方に対しては、農地中間管理事業を活用し、農地所有適格法人や認定農業者である担い手に利用集積を図り、農地の効率的活用や保全に努めている。



活用が待たれる農地

県への要望に対する回答は

平成27年度から
事業に着手している

消雪設備

西村 議員

津幡駅へのアクセス道路である主要地方道高松・津幡線の消雪設備の設置を、過去にも一般質問で取り上げてきた。駅を利用する方の通行の安全を守るためにも、早急を実現すべきだ。県への要望に対し、回答は得られたのか。

河上 産業建設部長

地元である中条地区振興会などからの要望を受け、県町長会などあらゆる機会を捉え、道路管理者である県に対し、強く要望してきた。これを受け、県は平成27年度から事業に着手し、測量設計を行っている。今後、事業の早期完成に向け、引き続き県に対し、確実な予算確保を要望していく。



▲冬も安全に通りたいね



河上孝夫 議員

ズバリ
町政を問う

いっぴ

河上 議員
町立小学校9校のうち7校にナイター設備がある。津幡小学校には設置されていないが、消防の訓練、ジュニアスポーツにも利用でき、また多くの町民も活用できる場所である。ナイター照明の新設を検討せよ。

ナイター照明

津幡小学校に設置せよ

近隣施設を利用してほしい

矢田 町長
津幡小学校移転時に、ナイター施設の設置について周辺住民や利用者との協議した結果、近隣のグラウンドを利用することに対応できるという結論になった。ナイター設備の新設、更新の際は、利用実態や費用対効果など総合的に検討したい。



▲夜間も利用できれば（津幡小学校）



▲万が一に備えて

また、現在当町に設置の防火水槽は消火活動のために設けられており、直接飲料水としては使用できない。消水利の維持管理は、消防団と地元区長の協力を得ながら適正に行い、有事に備えていきたい。

河上 議員

防火水槽のマンホールにさびが見受けられるが、管理は万全か。また、格納ボックスの消火栓ハンドル、消防ホースの確認などは行っているのか。災害時に防火水槽の水は飲料水に利用できるのか。

西田 消防長

春と秋の火災予防運動の期間に、消防職員と消防団員がすべての消火栓や防火水槽を点検し、マンホールの変形や水量などの確認をしている。格納ボックスの維持管理は、地元区にお願いしている。

消防水利

防火水槽、消火栓、格納ボックスの点検は

適正な維持管理に努める

ん質問



森川 章 議員

日本遺産に登録せよ

検討する価値はある

俱利伽羅地区

森川 議員

俱利伽羅地区の歴史と魅力を、「日本遺産」というラベルでパッケージ化するにより、観光客誘致、魅力あるまちづくり、地域の活力、定住促進が図られると考える。小矢部市と連携し、日本遺産に登録して、地域の魅力を最大限に発信することを求める。

◀ 俱利伽羅の魅力発信



矢田 町長

昭和49年以来、小矢部市と共通の課題について相互に協議、協力し、北陸の中核的な都市を目指して活動してきた。

俱利伽羅地区の日本遺産登録は、当町全体の活性化につながる施策であると考えられる。

しかし、文化庁による日本遺産認定の課題やハードルは高く、当町のみでは不可能と思われるが、検討する価値は十分にあると考えている。まずは小矢部市の意向を確認したい。

獅子舞

町指定無形文化財に

指定は難しい

森川 議員

当町は、加賀、能登、越中の分岐点で、多くの人が、物が交流してきた土地であり、獅子舞という文化も伝えられてきた。

登録し、次世代へ継承せよ。あわせて、各地区で保有する獅子頭を津幡ふるさと歴史館「れきしる」などに展示して、町の魅力を発信できないか。



▲ 祭事の館 (河合谷ふれあいセンター内)

竹田 教育部長

獅子舞を無形民俗文化財として町文化財に指定する場合は、各地域の獅子舞がその伝統を保持し続けているという点が重要視される。現在それを立証する資料が乏しいので、町文化財として指定することは難しい。

獅子頭の展示は平成13年に生活文化展として開催している。

今後も「れきしる」において、獅子頭や獅子舞の様子などの展示会実施を検討したい。

その他の質問

Q 体験型観光交流公園の経済効果は。

A 交流客を増やし、雇用の拡大などにつなげる。



塩谷道子 議員

ズバリ 町政を問う

いっぴ



国保税

引き下げを求める

現在のところ

考えていない

塩谷 議員

国保の抱える問題は、加入者の収入が厳しく、保険税の割合が高いことである。加えて病院での窓口負担も必要である。

国は、低所得者対策強化のため自治体への財政支援を拡充している。この制度を活用し、国保税の引き下げを求める。

矢田 町長

平成28年度の当町への財政支援拡充制度の交付予定額は約3400万円を見込んでいるが、27年度の町国民健康保険特別会計の単年度収支は、この交付金収入を含めても約2500万円の赤字となる見込みである。今後、厳しい財政運営を強いられることから、現在保険税の引き下げは考えていない。

子どもの貧困

実態を調査せよ

必要か検討する



▲すべての子どもに笑顔を

塩谷 議員

日本の子どもの貧困率は、2012年には16.3%にまで上がり、18歳未満の6人に1人が平均的所得の半分に満たない家庭で暮らしている。今必要なことは、子どもの貧困の実態をつかむことである。当町ではどれくらいの子どもが貧困なのか、その実態はどうなのか、具体的に捉える調査をせよ。

小倉 町民福祉部長

当町では、保護者からの生活相談や学校からの連絡により、子どもの貧困を把握し、その世帯の支援に当たっている。

さらに、保育園や学校では、職員が日常的に子ども健康状態や生活状況等を観察することで、支援が必要な子どもの発見に努めている。

現時点では調査を行う考えはないが、関係機関の意見を参考に検討したい。

その他の質問

Q 平和都市宣言の標柱とパネルをつくり替えよ。

A つくり直す時期がきたら適切に対処する。

Q 小学校5、6年の学級定数を35人にせよ。継続的に検討を重ねている。

ズバリ 町政を問う



竹内 竜也 議員

就学援助

現状認識は

教育費負担の軽減を

推進する

竹内 議員

経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対し、就学援助が行われている。

当町における平成27年度末の受給状況は、児童194人、生徒124人となっており、受給率はそれぞれ、8・4%、10・1%である。



▶元気に登校

(井上小学校)

学校生活を送る上で家庭の経済状況による不利があつてはならないが、このような現状に対してどのように感じているか。

吉田 教育長

経済的理由により就学が困難な児童生徒には、保護者の負担軽減のために、就学援助制度の利用を含めた教育費負担の軽減を今後も推進していく。また、すべての児童生徒への学力の保障と豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実に努める。

福祉分野とも連携を深め、児童生徒への切れ目のない支援を充実させていきたい。

ダブルケアへの 対応を示せ

育児と介護

総合的な相談支援に
努める



▲支え合う家族

竹内 議員

子育てをしながら介護も行わなければならないため、慢性的な疲労にさいなまれていく方が増えている。

また、子育て費用のほかに介護費用も負担しなければならないことがあつたため、経済的負担が重くなり、生活困窮に陥るリスク要因ともなり得る。こうしたダブルケアの問題に、どのように対応するつもりか。

小倉 町民福祉部長

当町では、ダブルケアで深刻な状況となるケースがあつたとの報告は受けていない。

現在、社会福祉課では子育てや介護のほか、障害サービズなど状況に応じた総合的な相談支援に努めている。

ダブルケア問題には、今後身近で気軽に相談できる窓口の設置や子育て・介護を地域全体で支える仕組みづくりが必要であると考えている。

追跡 あの質問のゆくえ

これまでに行われた質問や提言がどう取り組まれたか、2項目を選びレポートする。



▲街中も安心して歩けるよ

街中の歩道整備を急げ

平成26年12月会議 塩谷道子議員

街中では平成12年以前につくられた歩道が多く、段差もある。手押し車を押す高齢者には危険も伴うことから、歩道の整備は急務である。

安心な歩道の早期整備に取り組み。

答 弁

安心、安全な道づくりに努める

街中には学校、駅、病院などの公共施設もあり、歩道の安全性、快適性は必要と認識している。

指摘されている道は車道と歩道に段差がある形式で整備され、改修には街中としての課題や多額の工事費も必要となる。

今後は、セミフラット形式の歩道形態も視野に、高齢者や子どもたちの安心、安全な道づくりに努める。

その後

順次整備を進めている

加賀爪地内をはじめ、舗装修繕にあわせて、車道と宅地の乗り入れ部に段差がある道路を、緩めの勾配でスムーズになるよう改良工事を進めている。

今後も順次、バリアフリー化に向け整備していく。

コンビニでの証明書交付を実現せよ

平成24年9月会議 道下政博議員

証明書のコンビニ交付は自治体の窓口が開いていない日や時間帯でも証明書を取得することができる。住民が必要なときに都合のいい場所、町外にある店舗でもサービスを受けられる。

自治体にとっては住民サービスを向上させるほか、窓口業務負担の軽減などコスト削減効果にもつながる施策であり、住基カードの多目的利用とあわせて積極的な取り組みを提案する。

答 弁

費用対効果は認められない

導入の初期費用として約5000万円、毎年負担金等が約400万円必要なことや、コンビニへの手数料などがあり、費用対効果は認められない。

現在、かほく市以南の県内10市町で実施している広域行政窓口サービスや事前の連絡で時間外の対応もしており、導入は考えていない。

その後

平成28年1月からサービスを開始

マイナンバー制度導入に伴い、全国のコンビニエンスストアで、マイナンバーカード（個人番号カード）を利用して各種証明書が取得できるコンビニ交付サービスが平成28年1月25日からスタートした。

このサービスでは、住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍謄抄本などが取得でき、5月現在で1か月当たり25～30人が利用している。



スマホで議会だよりを

App StoreまたはGoogle Playから
i 広報紙 ダウンロードしてください。



津幡町HP携帯版

みんな楽しくやっぴま〜す!!

サークル紹介第27回

ピエロつばたクラブ

高くジャンプー!



代表 稲田 留美子
いなだ るみこ

現在、ピエロつばたクラブでは、小学生〜中学生26名が楽しくトランポリンを跳んでいます。クラブを結成してから1年ほどですが、高ききれいに宙返りできることを目標に練習しています。

トランポリン競技の目的は、台の上でどこまで自分を表現できるかであり、そのためには強い精神力が必要です。姿勢を真つすぐにし、空中で自分の身体を操ることができるようになれば、どんなスポーツにも役に立つと信じています。

また、土曜日に体験もできますので、ぜひ跳びに来てください。老年若者誰でもOKです。お待ちしております。

- ◆練習場所と時間
 - ☆総合体育館
 - 木曜 19時〜21時
 - 土曜 17時〜19時30分
 - ☆条南小学校体育館
 - 月曜 18時〜20時
 - 金曜 18時30分〜20時
- ◆連絡先
 - ☎0900-7080
 - 14597 (稲田)

ディスカバー つばた⑬

このコラムは、町内の名所・伝承を紹介します。

くすし 〜医師神社 (川尻)〜

川尻区にある医師神社には、その名のとおり、神社にまつわる伝説が残っています。

今から400年ほど昔、川尻地区に疫病が流行して、村人が次々と死んでいきました。あるとき、信心深い徳右衛門が田を耕していると、鍬の先に血が付いてきました。不思議に思っ



て鍬の当たったところを掘り起こすと、木コロの化石が現れ、血が流れ出ていました。驚いた徳右衛門はその木コロを持ち帰り、村人とともに朝夕礼拝したところ、疫病がたちまち収まりました。それで祠を建て、区の氏神様として祀ったのです。

表紙の題字は

太白台小学校5年

おおまつ
大松 心博さんの作品です。

津幡町は、自然豊かで心も体もいやくくれるスポットがあります。私はこんな津幡町が大好きです。



あとがき

いつも分かりやすく、町民の皆さまに親しんでいただけの紙面づくりに挑戦しているのですが、「表紙はほのぼののいい感じ。でも、ページを開くと文字と数字がびっしり。最後まで読むのはつらいね」という声はまだ多いです。これからも皆さまの忌憚のないご意見に耳を傾けながら、一人でも多く議会だよりファンが増えていくことを願い、さらに挑戦してまいります。

- 編集委員長 塩谷 道子
- 副委員長 荒井 克
- 委員 竹内 竜也
- 井上新太郎
- 八十嶋孝司
- 森山 時夫